

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690200330		
法人名	株式会社 メディカルケア		
事業所名	ケアホームなかそね		
所在地	富山県高岡市中曾根2374		
自己評価作成日	令和5年3月29日	評価結果市町村受理日	令和6年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.toyama-shakyo.or.jp/kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	令和5年4月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの建物は、木のぬくもりが感じられる古民家風である。利用者様にはいつまでも元気で過ごして頂きたいという代表の思いから、手作りヨーグルトや認知症の改善に効果がある乳酸菌(マウスケア)の服用、体内の活性酸素を除去する水素吸入を毎日行っている。
他にも取り組みとして、足浴後のマッサージや化粧水保湿、目的・効能に合わせたアロマセラピーの活用(加湿器での空間噴霧や肌に塗布しマッサージなど)を実施している。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ジアイノ、オゾン発生器を24時間稼働させており、職員はひとケア毎に介護用使い捨てエプロンを交換している。

- ・事業所は整理整頓がされ、木のぬくもりが感じられる古民家風である。
- ・利用者の健康を気遣い、自家製ヨーグルトを作り食している。
- ・メディカルケアの取り組みとして水素吸入、効果効能にあわせたアロマセラピー、ウイルス対策としてオゾン発生器の設置、保湿化粧品の使用など、利用者に活用している。
- ・居室にはベッドと筆筒が備え付けられているが、衛生品(おむつなど)がむき出しでおかれることなく、手製の布で覆い隠すなど羞恥心に配慮がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、会社の理念の唱和を行い、挨拶訓練、倫理の17ヶ条を読み上げている。日々のケアに反映されるよう実践に努めている。	法人理念「その人らしく一緒に暮らす」と、事業所独自で作成した挨拶訓練、倫理法人会 万人幸福のしおりより「倫理の17か条」を毎朝読み上げているが、理念についての理解を深めるための話し合いは行われていない。「寄り添う」ことについては週に1回のカンファレンスで話している。	ケアについての意欲や理解を深めるためにも、職員で話し合い、事業所独自の基本方針等を掲げるなど工夫が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、地域のイベントや小学校の行事に招待して頂いているが、コロナ禍のため中止となり、交流していない。	コロナ禍であり、地域の行事の参加を控えたため交流はない。事業所での納涼祭も利用者・職員で行った。町内会、自治会に所属しているが地域の回覧板の受け渡しはない。	回覧板には地域ならではの情報が盛り込まれている。また、事業所からの情報発信も考えられる。回覧板の受け渡しが可能になるよう自治会への打診を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の小学校6年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催しているが、コロナ禍のため開催していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、ほとんど開催していない。2023年7月、11月のみ開催。	運営推進会議は7月、11月の2回のみ開催した。それ以外は報告書を作成し、市関係者や、家族に郵送している。職員には議事録を回覧にて共有しているが、押印はない。	運営推進会議には様々な情報が盛り込まれている。回覧には押印欄を設けるなど工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議はコロナ禍のため中止となっている。苦情や事故報告など問題があった場合にはすぐに市に報告している。	コロナ禍のため、介護サービス相談員の訪問はない。家族からの苦情(衣類の間違い)などがあった際は、高岡市高齢課に報告を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠。毎週のカンファレンス時に身体拘束チェック表にてお互いの1週間のケアを振り返っている。	玄関は6時30分から20時まで開錠している。事故発生に備えて、各所にセンサーカメラが設置されている。身体拘束について内部研修を行っている。週に1回、利用者一人ひとりへの身体拘束の有無について職員全員でチェック表を完成させている。その折、利用者の行動変化について気づきがあった場合は、意見を出し合い話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないように入浴、トイレ誘導、オムツ交換時に身体に異常がないか観察している。異常が見られた場合すぐに報告している。虐待について、ホーム内研修や虐待防止委員会主催の全体研修にて学ぶ機会を持っており、2023年4月13日に開催予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2023年10月14日ホーム内研修にて成年後見制度について学んだが、職員は理解できていない。職員が理解できるよう、学ぶ機会を繰り返し頻回に設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族等の不安や疑問を必ず聞き、納得して頂けるまで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が気軽に意見を出せるよう玄関に意見箱を設置しているが、意見箱の設置を家族様に伝えていないため、意見箱が活かされていない。	面会や利用者の必需品持参のために家族が来所した際には、気軽に声をかけ話しやすい雰囲気作りを心がけている。意思表示が困難な利用者については、行動を観察しながら、家族に質問するなどして気持ちに寄り添うようにしている。意見箱は玄関正面に置かれているため、気軽に意見を投函しにくい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の定例会時に職員の意見や提案を報告し、代表から指示やアドバイスを頂き反映させている。	管理者が職員の意見や提案を報告し、代表から指示をもらっている。例えば、内部で昼食を準備しているが、コロナ禍は職員の意見で外部からの弁当配達で対応が実現した。利用者の状態悪化についてもその都度相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給あり。ロッカールームに休憩室を完備しており、リラックスできる場を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体研修はコロナ禍のため開催していないが、ホーム内での研修は実施している。希望者には実務者研修や認知症実践者研修を受講する機会を与え、参加できるよう勤務調整している。代表者は、介護の分野だけではなく人間力を高めるための研修も学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同業者と交流する機会はほとんどなかったが、外部から講師を招聘し研修を受ける機会を設けている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人は慣れない環境で混乱しやすい状況なので、本人の気持ちの動きや思いに気を配ることで、受け入れられているという安心感を与えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等から困っている事、不安な事、要望を必ず聞き、職員同士で情報共有し、家族との信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から困り事、不安な事、要望を聞き、まず必要としている支援を提供し、週1回のカンファレンスで本人の様子について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る範囲の家事(洗濯物たたみ、テーブル拭きなど)を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会や受診付き添いに制限を設けているため、本人と家族が接する機会が減っているが、家族が面会を希望された場合は窓越しやzoomで面会をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、馴染みの場へ出かける機会が減っているが、面会を希望された家族等にはzoomや窓越しの面会を行っている。	近隣への散歩やドライブへ出かけている。毎月1回理美容の訪問がある。家族との面会は窓越しで行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格を考慮し利用者同士の関係が仲良くすすむよう、レクレーション時に職員が気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、家族に本人の様子を伺い、必要なら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、全ての利用者の思いを把握しきれていない。意思疎通が困難な方には本人の立場になって考え、意向の把握に努めている。	入所時に利用者と家族の思いや意向を聞き取りフェイスシートに記入している。意思疎通が困難な場合は、日常生活から表情や行動を観察して対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞き、生活歴や生活環境の把握に努めている。新しく得た情報はカンファレンスで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の身体の状態、生活リズムを把握し、申し送り時に引き継いでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のカンファレンスで、職員の意見やアイデアを聞き参考にしている。	利用者の様子や変化があれば申し送り時に伝え連絡ノートで全職員に周知している。週1回カンファレンスを設け、関係者と全職員で話し合い、意見交換を行いながら介護計画を作成しているが、家族からの意見を聞く機会が少ない。	利用者や家族の要望や意見を取り入れ、より良い生活が出来るように努めることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを支援経過に記録し、必要な時は24時間シートを活用している。カンファレンス時に情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	代表の提案で、身体の活性酸素を取り除く水素を吸入できる水素ポットを導入し、1日1回水素吸入を行っている。 認知症に効果がある乳酸菌(マウスケア、金沢大学教授とのコラボ)を家族様に説明し、希望があれば購入して頂き、毎日服用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム前にて、小学生の下校時の見守り隊を行っているが、コロナ禍のため中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はコロナ禍のため、必要な時以外は本人の身体状況を主治医に伝え、処方薬を頂いている。 受診時は、新型コロナウイルス感染防止のため職員が付き添っている。	コロナ禍前は、家族とかかりつけ医に受診していたが、コロナ禍から訪問診療を利用し、処方箋は協力薬局が届けている。家族には通院後、電話連絡で診断結果や状態を報告している。看護師が医療計画書を作成し利用者の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化があればすぐにホームの看護師に伝え、必要であれば受診している。 ホームの看護師と訪問看護師の連携を密に行い、情報や気づきを訪問看護師に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず介護サマリーを作成し提出している。 入院中は、病状把握のため定期的に地域連携室から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて家族に説明している。重症化した場合家族の意向を確認し、家族、主治医、訪問看護と話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は、担当医、看護師や訪問看護師、家族と話し合って今後の対応方針を決めている。看護師は24時間電話対応を行い医師との連携を図っている。看取りの場合は家族に説明して同意を得ている。家族は居室で付き添いや泊まることことができる。	全職員が同様の対応ができるよう、重度化や看取りについての研修を行い、実践に活かしていくことが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにはAED、救急カートが設置されている。職員は救命講習を受講している。全体研修で緊急時の対応をシミュレーションにて学んでいたが、ホームでの訓練・シミュレーションは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は2カ月に1回、消防署立会いは半年に1回実施しているが、コロナ禍のためほとんど実施していない。災害時の備蓄品は準備してあるが、地震・水害等の避難訓練は実施していない。BCPマニュアルは作成中である。	半年に1回、消防署と火災訓練を実施している。2ヶ月に1回、施設内の自主避難訓練を行っている。水害や地震の場合の避難場所まで実際にかかる時間を測るなど今後の課題として取り組んでいく予定である。	BCPマニュアルの内容、備蓄の期限を確認し、備蓄品リストを作成して全職員に周知することに期待したい。また、地域との協力体制を築いていくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修をホーム内で行わない言葉遣いには気をつけているが、言葉や態度が感情的になることがある。高齢のためほとんどの利用者は耳が遠く、トイレ誘導時などの声かけが大きくなってしまふ。	馴れ合いな言葉遣いに気をつけている。大声で話さないように職員間で注意をしている。個人情報保護方針を掲示するとともに個人情報情報を漏らさないことを全職員が認識して敬意を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日常会話の中で本人の希望があれば聞いている。 おやつ時の飲み物など、本人が決めやすいよう2つの候補をあげて選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に要望に合った対応をしているが、入浴などで業務優先の対応をすることがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	代表の提案で、入浴時はシャンプーとトリートメントを、入浴後は化粧水をたっぷり使用している。足浴には角質ケアに優れている洗顔料を使用し清潔保持に努めている。月1回、訪問美容師に来て頂きヘアカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりに合った食事形態で提供している。スプーンで食べている利用者には、食べやすいようひと口大に切って提供している。お楽しみランチを企画し、利用者のリクエストを聞き、要望に添うよう努めている。	食事の献立や食材は業者に頼み、月8回は、利用者のリクエストを反映させたお楽しみランチを摂っている。ご飯とみそ汁は担当職員が作り、利用者の状態に合わせて、きざみ、ミキサー食を提供している。職員は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者よりチルドで配達された食事を毎食ごとに湯煎で温めて提供している。食事量、水分摂取量は必ず記載し、一日の摂取量の把握に努めている。水分摂取が進まない方には、好みの飲み物を提供し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせ、介助や見守りにて口腔ケアをしている。受診が必要な場合、連携している歯科医院に訪問診療を依頼している。歯ブラシや口腔コップは毎晩消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して排泄パターンを掴み、適宜にトイレ誘導している。便意があっても便が出そうで中々出ない時は、腹部マッサージや肛門周囲のマッサージを行い自力での排便ができるよう支援している。	排泄チェック表で一人ひとりの把握を行いトイレ誘導を促している。オムツ対応の方にも、定期的にトイレ誘導を行い、自立に向けて支援している。排泄の際は、必ずドアを閉めてプライバシーを守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日手作りヨーグルトを提供している。認知症の改善にも効果がある乳酸菌(マウスケア)を希望される方は服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴している。入浴の曜日、時間は決まっているが、入浴のない日は足浴を行い、化粧水で保湿しマッサージを行っている。入浴を希望しなかった利用者には足浴している。	入浴は週3回である。利用者の希望に応じて対応に努めている。足浴後、化粧水を使いマッサージを行っており、利用者からむくみが軽減すると喜ばれている。ゆず湯の日を設けて入浴を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか安眠できない方には、代表の提案で気持ちをリラックスさせ穏やかに入眠できるようラベンダーオイル等をアロマディフューザーで焚き、できるだけ薬に頼らない支援を努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は必ず保管している。連携している薬局から処方して頂いており、薬が変更・追加した時は情報提供している。服薬時は、必ず名前、日付、時間を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみの他に、たこ焼きホットプレートでのおやつ作りを手伝って頂いている。その人にできる手伝い(具を入れる、ひっくり返すなど)を見極め、お願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、ドライブなどの行事はコロナ禍のため行っていないが、近くの公園の散歩を希望された場合は、職員が付き添いし出かけている。	コロナが緩和しているときはドライブ、花見、曳山祭りを見に出掛けている。現在、家族との外出や外食は控えている。近くの公園を散歩したり近隣の方とのふれあいを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や外食の時にお金を使っているが、コロナ禍のため行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきた時、本人や家族が希望されたら取り次いでいる。家族からの手紙は、読めない方には読み聞かせている。自分で年賀状を書ける人には書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、適宜に換気し、空気清浄機、ジアイーノ、オゾン発生器を設置し、常に稼働させている。玄関やホールには抗菌抗ウイルス効果のあるアロマオイルを焚いている。	共用空間は感染予防対策を行っている。木のぬくもりと天窓の光が差し込み開放感と温かみのあるダイニングルームである。テレビ前のソファは利用者の居心地が良い場所になっている。利用者は口腔体操、ラジオ体操、書道、ぬりえ、パズルなどを楽しんだり、洗濯たたみを行ったりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビの前にソファがあり、談笑したりテレビを観たり居眠りしたりと思いおもいに過ごしておられる。庭に面したテラスでは、ゆっくり日光浴をして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳が敷いてあり、使い慣れた家具や馴染みのものを使いやすいように配置し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	居室は日当たりがよく明るい。自宅で使用していたタンスや家族の写真などを飾るなど、一人ひとりの個性がみられる。利用者は居室の整理整頓をしたり、昼寝、体操、読書、テレビを観て過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、車椅子の方が自力走行にてスムーズに移動できるよう段差がない。 扉の取っ手は開閉しやすく握りやすいよう、大きなものがついている。トイレや自分の居室が分からなくなる方のために、トイレや居室の入口に貼り紙をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震・水害等の避難訓練を実施していない。	地震・水害等の避難訓練を定期的実施する。	BCPマニュアルの内容を全職員に周知するため、定期的に研修を行いシュミレーションし、避難訓練を実施する。	12ヶ月
2	2	コロナ禍のため、地域の行事やイベントが中止となり、地域とはほとんど交流していない。	地域の行事やイベントの開催があれば参加する。地域交流会を開催する。	運営推進会議にて、地域の行事やイベントの開催情報を得て参加する。地域住民を対象に地域交流会を企画し開催する。(地域交流会の年間計画を別紙添付)	12ヶ月
3	2	地域とのつながりが弱く、地域の情報を得る機会が少ない。	地域の情報を得たり事業所の情報を発信するため、自治会の回覧板の受け渡しに参加する。	開所時は回覧板受け渡しに参加していた。自治会長へ回覧板の回覧を依頼し再開する。	12ヶ月
4	26	介護計画を作成するにあたって、家族からの意見を聞く機会が少ない。	家族からの意見や要望を取り入れ、現状に即した介護計画を作成する。	面会時や家族との連絡時に、利用者の施設での様子をお伝えした上で、家族の要望や意見を聞く。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()